

談呆園憂

season 2 VOLUME 28

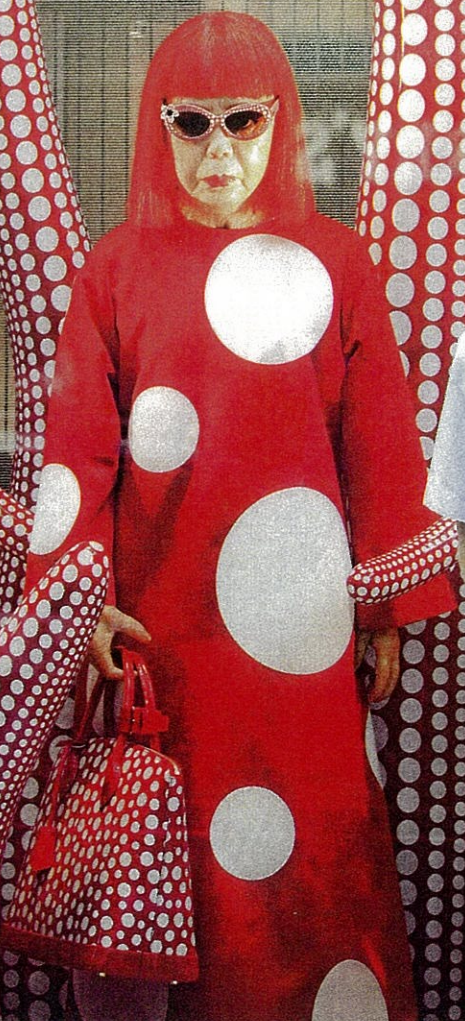
今月のメインコト

尖閣諸島と竹島問題から、
原子力基本法の改正、
福島での甲状腺検査、
クリントン演説まで！

ヤヨイ・タサマコレクションが人気のレイ・ウイトン、
美容道店のウインドウ前で、両氏は「草間彌生入形」とご対面。
店内にあるアートスペースで展示会を鑑賞した後、
場所を変え、尖閣問題を皮切りに、
日本の外交や安全保障の在り方を論じ合った。
Photographs by Hiroshi Takaka text by Kenjiro Matsui

田中康夫

浅田彰





韓首脳会談が開かれた時も竹島問題にはふれなかった。今年2月の予算委員会でも質問すると、外務大臣レベールで話し合う事柄だと、驚くべき答弁をしている。誰も住んでいない竹島に、韓国側が巨大な橋を造ったり、なぜかファッションショーを開いても遺憾の意を伝えるだけ。四方を海に囲まれた日本は「領土・領海部」を内閣府に設置すべきだと予算委員会でも提案しても、

反応ゼロ。それは自民政権時代から五歩百歩で、2008年に米国連邦政府の地名委員会が竹島を韓国領と記載した時、抗議しないのかと問われた当時の官房長官の町村信孝は「抗議を行う意思はない。なぜ必要なのか」と答えている。

中国も韓国も今年「政権交代」の年だし、国内の反政府的な感情を眩ます目的も含んだ外交や防衛を行わざるを得ない。こうした悪い「先送り」をしてきたツケが一気に噴き出しているんだ。

浅田 他方、北方領土では、ロシアのウラジーミル・プーチン大統領が、1955年の日ソ共同宣言を確認した上で、「引き分け」でいいじゃないかって言ってる。中韓の指導部と違い、プーチンはまだ強力な政権基盤をもってるから、日本も柔軟に対応すれば、けっこう話が進む可能性はあるね。4島一括返還にこだわって氣勢を上げてても話は進まないんで、とりあえず2島返還に応じ、共同での地域の経済開発を行ってあげば、見通しが開けるんじゃないか。

たしかに領土・領海は毅然と主張すべきだけど、日本の右翼が「国土」ぶっていたずらに騒ぐとか、相手国も反政府感情を反

日感情にすりかえて騒ぐとか、そういう感情のぶつけ合いで緊張が高まるのは愚かしか言いようがない。日本も、民主党政権が行き詰まり、政権交代を視野に入れた動きが激化する中、この「国難」を機に安倍晋三と橋下徹の右翼連合がささやかれるとか、ろくでもないことになってきてる。今こそ冷静にならないと。

田中 国家という概念を認めるなら、「国破れて山河在り」の以前に「人破れて国家在り」とならぬよう、現実目の前にある「人の生活」はどうあるべきかを問題提起してこそ、真の政治家なのにな。その意味でも、高橋の「尖閣問題などどうでもいい」発言や、坂本の「たかが電気」発言は、先富ならぬ共富という哲学へと人々の認識が深まる、創造者としての芸術家的なパースペクティブが求められていたんだね。

付則として盛り込まれた「安全保障に資する」の文言

浅田 それとも関連するけど、6月に原子力規制委員会設置法が成立したとさくさく紛れて、「我が国の安全保障に資することを目的として」という文言が原子力基本法に書き加えられたことで、周辺諸国が日本は核武装する気じゃないのかと懸念し始めたことも、緊張の高まりと無関係じゃないと思う。



田中康夫
たなか やすお ●1956年東京都生まれ。
一橋大学法学部卒業。大学在学中に『なんとなく、クリスタル』で文芸賞受賞。
長野県知事、参議院議員を経て、現在、衆議院議員・新党日本代表。

2008年に宇宙基本法が制定されたときも、「平和利用に限る」というそれまでの国会決議をオーヴァーライドする形で、「我が国の安全保障に資することを目的として」という同じ文言が盛り込まれた、そっちは明らかに偵察衛星を打ち上げたりするためのものだからね。むしろ原子力基本法には2条に「平和目的に限る」という規定が残ってるけど、「我が国の安全保障」なんて言えば、周辺諸国が敏感に反応するのは当然だよ。実際、右翼の間には、核をもつのが「大国」なんで、日本もいざとなれば軍事利用に転用できるような核能力を維持すべきだ、という暗黙の了解があり、それが脱原発にブレーキをかけてるわけだからね。

さらに言えば、「安全保障」のために情報公開を制限するというのが話にならないんで、これがまた大問題。

田中 旧科学技術庁を抱える文科省の思惑を利用して、核武装派がゾンビのように登場した悪夢だね。一般的に基本法というのは理念法で、罰則規定もないから役人にとっては屁でもなくて、実行法でなければ意味がない。以前に

2島返還に応じ、共同での地域の経済開発を行ってあげば、見通しが開けるんじゃないか。(浅田)

制定された男女共同参画社会基本法と同じでお題目を言ってるに過ぎない。だけど、原子力基本法にそうした文言が入っていると、既得権益側はそれを拡大解釈して使っている。国民の側が求めている基本法は実効性がないけど、役所の側から出てくる基本法には要注意なことだよ。

浅田 うん、宇宙基本法に続き原子力基本法に「我が国の安全保障」という文言が書き加えられた、そこには明確な意図を感じるね。

田中 3・11直後の講演で、「放射能の影響はニコニコ笑ってる人には来ません。クヨクヨしてる人に来ます。これは明確な動物実験でわかっています」と珍説を繰り返した日本甲状腺学会理事長で、福島県立医科大学副学長として県放射線健康リスク管理アドバイザーを務める山下俊一は、毎日新聞で「チェルノブイリ事故後、ウクライナでは健康影響をめぐる訴訟が多発し、補償費用が国家予算を圧迫した。そうなたとときの最終的な被害者は国民だ。日本という国が崩壊しないように導きたい」と言い放ってる。国民の安全を保障するよりも行政の面子を優先するトンデモ「誤用」学者が福島県内の子ども甲状腺検査を差配してるんだよ。

すでに県内の、平均年齢10歳の子ども4割近くに何らかの甲状腺異常が発見されていて、心配になった父母が他県でも一度検査を受けようとしたら、甲状腺学会が先回りして保険適用をするなどお触れを出している。その山下と「私的懇談会」を繰り返す細野豪志は、来年度から福島県内の子どもからDNAを採取し、「通常と異なる



塩基配列や遺伝子の異常を見付け、「被曝が人間の遺伝子に与える影響を調べる」「ゲノム全遺伝子情報」の解析調査に乗り出すと言いつい出し、環境省は数十億円の予算を概算要求した。

「すぐに不安の解消には繋がらないかもしれないが、人間の根源的な遺伝子を調べることで将来への予防になる」と胸を張るのだから、彼のオツムこそX線CT検査すべきだよ。洪水の危険性が高い地域に多くの住民が暮らしているのに、すぐに実施可能な住民避難も堤防補強も家屋移転も行わず、数十年後に完成予定のダム建設に向けて多額の調査費を計上しているような本末転倒住民をモルモット化する話だ。

チェルノブイリでは子どもを中心に少なくとも6000人が甲状腺癌を発症している。放射線量5E6/年を超える地域は立入禁止の強制避難ゾーンとしたにもかかわらず。ところが、日本では、5mSv/年を超えても居住可能「福島に寄り添う」と事ある毎に高言する細野は逆に、20E6/年以下も避難指示解除準備区域としたんだから、福島の避難基準は、チェルノブイリより4倍も「高い」、もとい「緩い」んだ。

福島市が行った市民意識調査で、「今でも避難したい」と34%が考え、既に市外に避難した46%が「戻りたくない」と回答しているのは、政府を信用していない表れ。前回も紹介した、田中正造の気骨の持ち主として僕が敬愛する井戸川克隆・双葉町長は、「町全域を帰還困難区域に指定すべき」と避難先の加須市に設けた双葉町役場埼玉支所から政府に要望しているけど、当然だよ。浅田 そう、「我が国の安全保障」よりも大事なものは「人間の安全保障」なんて、そのためには、不完全な除染なんか

現実には目の前にある「人の生活」はどうあるべきかを問題提起してこそ、真の政治家なのにね。(田中)

より、集団移住を考えたほうがいい。もちろん、「福島原発の第一サテライト」を放射性物質の処分場にするほかにないという石原伸晃の暴言には嘩然としたけれど、20キロ圏内でもいつかは戻れるかもしれないといういてい幻想を与え続けることは、同じくらいひどい虚言だと思ふよ。

ビル・クリントン元大統領の推薦演説がスゴイ

浅田 橋下徹大阪市長が新党「日本維新の会」を結成して国政に進出すると宣言した。民主党を脱党した国会議員9人が加わり、次の衆院選では過半数の議席獲得を目指すなんて言ってる。われわれは橋下の「大阪の合理主義」には見るべきところもあると認めてきたわけだけど、ここに至って右翼的な色合いを強め、安倍晋三との連携が取り沙汰されたりする状況は、非常に危険だね。

田中 橋下は大阪を「都」にしたがってるけど、「都」は首都であって、保守系の人間からすると天皇が住んでいる御座所のこと。彼が大阪こそ都と呼ぶに相



を再建することが急務だと思ふね。

一方、11月のアメリカ大統領選を控えて、共和党がミット・ロムニー、民主党がバラク・オバマ大統領を候補として正式指名したけど、オバマの演説よりビル・クリントン元大統領の推薦演説のほうが印象に残ったな。データを引きながら、とくに経済面でオバマ政権がいかに功績を上げたかを具体的に説いていくんだけど、ひとりひとりに語りかけるようなくだけた語り口が本場にうまい。つねに他人からちやほやされたい性格が、大衆とのコミュニケーションを円滑化するわけ。他方、オバマは自分の知性を疑われない自信家で、雄弁に演説するんだけど、大衆と一体化しきれない。とくに今回は、共和党との対決色が強すぎたかな。

とはいえ、共和党はテイラー・パーティ的な草の根右翼（日本の橋下旋風とも共通する）に引張られて、もうめっちゃくちゃ。金持ち減税とタカ派路線一本槍で、あれではオバマが攻撃するのも無理はない。共和党大会で唯一まじったのはコンドリーザ・ライス前国務長官の演説で、さっそく、4年後は彼女とヒラリー・クリントン現国務長官の激突か、なんていう声も。

田中 たしかにビル・クリントンの演説はオバマの演説より実体があったね。中国も胡锦涛に続く習近平体制の10年先を見据えて、内モン自治区共産党委員会書記の胡春華、吉林省党委書記の孫政才といった第6世代を抜擢・育成している。その戦略性には舌を巻くよ。出たとこ勝負でロシアアンルーレットのように、その場しのぎの出来の悪い首相が誕生し続ける、どこかの国とは大違いだ。

浅田 彰

あさだ・あきら ●1957年兵庫県生まれ。京都大学大学院経済学研究科博士課程中退。京都造形芸術大学大学院長。83年に出版されたデビュー作『構造と力—記号論を超えて』はベストセラーに。

その橋下に、都構想法案や消費税増税を行って「決められる政治」だと褒められた野田は、予定調和のような内閣を維持する直後に、「私心は全くない」と明言できます。真に国家と国民を愛しています」と挨拶したでしょ。確かに自分の意志も哲学もないから、私心はないよ（苦笑）。でも、国民を愛しているとは到底思えない。財務省やアメリカや経団連の思惑で「決めさせられている政治」だもの。

子どもを守れと集まった原発派からも、尖閣を守れと集まった嫌中派からも「辞めろ」コールの大合唱になった新宿西口の街頭演説でも、「屁の河童」だった鈍感さには、別の意味で尊敬するけどね。

浅田 政党がほとんど機能してないから、橋下新党のような第三極に過剰な期待が集まる。民主党・自民党の党首選の結果がどうあれ、政界再編を経てまともな政党政治

